

ムシムシムシムシムシ どうも鳥居です。今回は日本の里山について説明しました。この号では、僕が実際に体験した経験をもとに里山について話したいと思います。

僕が農業体験で通っている場所は栃木県のとある棚田です。棚田とは田んぼが段々畑になっている土地のことです。僕はこの場所に10年間通っています。目的はもちろん昆虫！その場所には僕が大好きな水生昆虫が数多く生息しているのです！しかし、僕はここに辿り着く前に様々な場所で水生昆虫を採集していて、生息している環境を見てきており、その経験から、この栃木の棚田には水生昆虫が生息するために必要な条件が一つ足りないことに気がきました。それは池です。池は秋から冬にかけて水生昆虫が冬眠に使う他、産卵場所としても役割を果たします。また、それに伴ってカエルや蛇、イモリ、水鳥など他の生き物達も利用するととても良いコミュニティになります。また、ここはとても良い環境であるにも関わらず、ナミゲンゴロウという日本最大級のゲンゴロウが確認できていなかったのです。そこで、僕は約4年前の冬に棚田を管理してる人達に提案して、みんなで1つの休耕田を機械で掘り、そこに小川から引いた水を入れて池にしました。池を作ってから最初に来た生き物は春先に池に産卵しに来たヤマアカガエルとニホンアカガエルです(写真1)。作ってまだ2ヶ月ほどしか経っていないのに7つほどの卵塊が確認できました。その後、土を掘ったことにより地中に埋まっていた種が発芽し、池に水草も徐々に生えました。そして狙い通り多くの水生昆虫が利用するようになり、水鳥なども度々見られるようになりました。この池の観察を通して学んだことは、好きな生き物を見るためには周辺環境とその地域についても見なければいけないということです。



2：夏のハルニレの木。夜来るとたくさんのクワガタが見られる。

そこで僕は、この棚田周辺の雑木林を散策し、クワガタやオオムラサキを始めとする雑木林にいる昆虫についても環境との関わりを知り、また、周辺地域の文化を教えてもらい、この里山という環境の素晴らしさをより知ることができました(写真2,3)。だからこそ、この環境とそこに生息する生き物は保全しなければいけないと思い、乱獲者から生き物を守るために注意書きを示した看板を建てました(写真3)。乱獲者以外でも後継者の不足など様々な問題があるため、この環境を守るためにできる事を地域の方々とも相談しつつ考えています。

このように、僕はフィールドワークから様々なことを学び、経験を積み重ねています。池は今なお変化を続けていて、生息する生き物の種数や総数も増加していています。僕はここに生息する水生昆虫が絶滅してしまわぬように、できるだけこの棚田の活動にこれからも貢献していきたいと思います。



1：春先の池。この黒いのは全てオタマジャクシ。僕らが作った池では毎年、ニホンアカガエルやヤマアカガエル、アズマヒキガエルの3種のカエルが卵を産み、とんでもない数のオタマジャクシが見られる。



3：江戸時代から伝わってきた「螢籠」という伝統工芸品。藁で作られていて昔の子供はこれの中にホタルを入れて遊んでいたのだという。地元の方に作り方を教えていただきました。



4：生き物を保護するために建てた看板。この場所は、深夜などに勝手にこの棚田に入り生き物を乱獲する方が度々来る。地域の方が毎回通報してくれる。